

# 4 技能のバランスのとれた日本語力の向上をめざして

ベトナム 東遊(ドンズー)日本語学校 日本語教師

ファム・ドク・ユン

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

## 「東遊日本語学校」名前の由来

19世紀後半、フランス植民地だったベトナムでは、「民族独立」の悲願を達成しようと、多くの愛国者たちが武力蜂起を繰り返しては植民地軍に敗れ、殺害されていった。20世紀初頭、ベトナムの愛国者ファン・ボイ・チャウは、独立運動の若い指導者を日本で育てようと、「東遊運動(東方=日本に学ぶ運動)」を起こした。当時日本は日露戦争にも勝って隆盛期にあり、ベトナムにとって日本は輝かしい民族独立のシンボルであった。ファン・ボイ・チャウは同志を募り、広く民衆から基金を集め、優れた青年たちを日本に送り、自らも日本に渡り奔走して、人生を民族独立運動に捧げた。私たちは、百年近く前に先達が志した民族への思いを幾分かでも受け継ぎたいと考え、私たちの学校を「東遊日本語学校」と名づけた。

(「東遊日本語学校案内」校長あいさつ)

### 1 はじめに～学校設立の目標～

#### (1) 日本への留学生派遣

1964年の開校当時より、ベトナムの国造りを担う人材の育成のための留学生派遣を目標としてきた。日本国内に多くの協力者を得て、1999年現在、送り出した学生総数は100名余り(うち70名在学中)となった。帰国後の活動が楽しみである。

#### (2) 日本語教育

ベトナムでは、ヨーロッパ、アメリカからの文化・技術の吸収に比べ、日本からのそれが立ち遅れている。当校は、より多くのベトナム人が日本語を学び、日本の文化・技術を学ぶ機会を提供し続けている。

#### (3) 日系企業スタッフへの日本語教育

ベトナムへ進出する日系企業が多くなる中で不足している、日本語のできるベトナム人スタッフの養成に力を入れている。

#### (4) 翻訳・出版

日本文化・技術の理解のために不可欠な、文書翻訳の仕事を進めていきたい。

#### (5) 日本文化の紹介

ベトナム国内で日本そのものへの理解がより一層深まるよう、日本文化の紹介の機会をより広い視野で提供していきたい。

### 2 コースの概要と使用教材

本校では、3つの校舎(表1)で、4つのコース(表2)が開設されている。



1. 主に使っている教材

表1 東遊日本語学校  
ひょう ドンズー にほんご がっこう

| 校舎名<br>こうしゃめい                | 授業時間帯<br>じゅぎょうじかんだい    |
|------------------------------|------------------------|
| Ho Van Hue 本校<br>ほんこう        | 午前・午後・夜間<br>ごぜん ごご やかん |
| So Y Te 校<br>こう              | 午前・午後・夜間<br>ごぜん ごご やかん |
| Nguyen Thi Minh Khai 校<br>こう | 夜間<br>やかん              |

表2 「東遊日本語学校」の日本語コース  
ひょう ドンズー にほんご がっこう にほんご

| コース名<br>こうすめい           | 授業時間数<br>じゅぎょうじかんとすう             | 授業時間帯<br>じゅぎょうじかんだい             |
|-------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 急進コース<br>きゅうしんこうす       | 24コマ/週<br>じゅう                    | 月～土：午前または午後<br>げつ～ど ごと ごぜん ごご   |
| 普及コース<br>ぷふきこうす         | 12コマ/週<br>じゅう                    | 月～土：午後または夜間<br>げつ～ど ごと ごご やかん   |
| 一般コース<br>いっぱんこうす        | 6コマ/週<br>じゅう                     | 月水金または火木土：夜間<br>げつすいきん かもくと やかん |
| 企業研修生コース<br>きぎょうけんしゅうせい | 各企業の要請に応じて設定<br>かくきぎょうようせいおうせつてい |                                 |

- 1 コマは45分。
- 1年4学期制で、1学期は12週。
- 学期ごとに小試験があり、さらに576コマ終了後に初級試験、1,152コマ終了後に中級試験を実施。
- 使用教材（前ページ写真1）
- 初級用教材  
急進コース：『日本語初級』（国際学友会日本語学校）  
普及コース、一般コース：『新日本語の基礎』I、II  
ベトナム語版（スリーエーネットワーク）
- 中級用教材  
『新しい国語』2年生～5年生（東京書籍）
- 漢字  
『当用漢字』：関宮市、富山民蔵『当用漢字辞典』（中教出版）から引用して作成したもの。

### 3 教授法

#### (1) 漢字の教え方



2. NHK放送のテレビを見ている学生

まず1,850字の当用漢字について、ベトナム語の意味と発音をざっと教える。その後で、新聞などから漢字を選んで、その漢字の意味と発音を辞書で調べる練習をする。次にNHKの生放送（主にニュース番組）を見せ、テレビの画面に出た漢字を取り上げて、ベトナム語で何の意味かをいっしょに考える。（写真2）これは、漢字を楽しく学生の頭に送り込むためである。それから、漢字が定着するように、一字一字、読み方や書き順を丁寧に教えていく。さらに毎日のように勉強した漢字を復習させる。

#### (2) 会話の教え方

大人になって外国語を習うベトナム人は、何でもすぐノートに記入する傾向がある。そして、最初の段階で頭だけで理解して、口がかたくなるくせの人が多。これを避けるために、会話の授業は机のない別教室で行う。また、授業では、ベトナム人教師が日本人教師と組んで、学生の前でモデル会話を実際にやってみせて教える。（写真3）



3. 日本人教師とベトナム人教師による会話練習

## (3) 読解の教え方

初級の段階では、『新日本語の基礎』Ⅰ、Ⅱの短文を読ませるのだが、中級になると、読解を中心にしようという方針から、『新しい国語』を読ませて、ベトナム語に訳させる。

## (4) 文法の教え方

初級では、『日本語初級』や『新日本語の基礎』の文型、例文を利用して練習させる。中級では、基本的な文法を復習しながら、『新しい国語』に出ている文法項目にそって学ばせる。

## (5) 「日本留学のためのコース」

普通の「急進コース」と違うのは、漢字を徹底的に習得させて、1日に1時間以上NHKの生放送（午前7時、12時、午後7時のニュース）を見せることである。また、日本の高校生用の世界史（山川出版社『詳説世界史』）数学（数研出版『数学Ⅰ』）、物理（実教出版『新高校物理』）、化学の教科書を短時間で読ませる。このコースの学生達は学校の寮に泊まって、1日8時間以上勉強しなければならぬことになっている。

## (6) 「企業研修生コース」

日本企業に入って働く者のためのコース、日本へ研修に行く者のためのコースで、ほとんどが4ヶ月から6ヶ月のコースである。漢字の学習を軽減して、会話を重視してほしいという企業側からの要望が多い。

## 4 コースの評価

1年間勉強した学生（本校中級試験合格者）は、多少日本語ができ、日系企業に就職できるようになる。留学を目標にする学生の場合は、6ヶ月から1年間学ばないと、なかなか日本で生活できるようになり、2年後には日本の大学に入学できるようになる。ベトナムにある日本の会社からも日本語教育の要請がよく来るが、その一方で、次のような問題を抱えている。

## (1) 漢字を教えるのに時間がかかりすぎる。

漢字というのは意識的に勉強するとかえって覚えにくいし、忘れやすい。そのため、時間をたくさんかけて教えてもむだになることがある。また、漢字の学習に時間をかけすぎると、文法、会話の時間が少なくなってしまう。

## (2) 学生の会話力が思ったほど向上しない。

前述の会話の教え方を導入してから、学生の発音が悪くてなかなか直らないとか、授業が進みにくいといった苦情が日本人の先生から来るようになった。調べてみると、ベトナム人教師の発音が違っていることが多く、会

話力が不十分ということがわかった。

## (3) 読解の面白い授業がまだない。

主にベトナム語訳で授業が終わってしまうため、日本語と母語の違いから、内容を誤解してしまうことがある。そのため、日本語能力試験2級レベル以上を受ければ、落ちてしまう。つまり、速読は何かできるが、精読はできない。だいたいの内容は把握しているのだが、細部まで正確には理解していない。

## (4) 聴解力が弱い。

実情では、NHKの生放送を見させる以外、よい方法がない。『楽しく聞こう』Ⅰ、Ⅱ（凡人社）『毎日の聞きとり50日』上・下（凡人社）のような市販教材はあるのだが、ベトナム人の学生のレベルにぴったり合っていない教材がまだない。

## (5) 4技能のバランスのとれた成果が得られない。

ひとつのことを教えすぎると、他は教え足りなくなる。一つのミスを直すと、他のミスをおかしてしまい、まるで迷路に入ってしまったようである。

## 5 今後の方針

## (1) 漢字を効果的に教える。

まず教える時間を短縮する。それとともに「漢字と遊ぼう」という旗をあげて、学生に無意識に、楽しく勉強させる。日本の新聞や雑誌、それからNHKの生放送を徹底的に利用して、漢字だけでなく日本事情、とくに現代の日本の情報も教えていきたいと思っている。

## (2) ベトナム人教師と日本人教師とが協力ができる環境を作る。

基本的な原因は、ベトナム人教師の日本語の運用力や教授法の知識が不十分なことである。そこで、定期的なベトナム人教師の研修コースを行う。また、教師のレベル向上の雰囲気を起こすためには、早急にベトナム人教師対象の教師資格試験制度を作り出さなければならぬだろう。

## (3) 4技能全体を視野に入れたカリキュラムを立てアンバランスをなくす。

聞く、話す、読む、書くという4つの技能は、相互に関連していて、一つの技能にだけ集中するとかえって全体の結果が悪くなってしまう。したがって、4技能をばらばらに扱うのではなく、総合的な計画を立てて授業を進めていきたい。

## (4) 聴解、作文の教授法の研究をする。

まだ、当校では研究が進んでいない分野であるが、ベトナムの現状に合う方法を見つけていきたい。